

主題名：決まりの大切さ 〇規則の尊重

資料名：よしみち

(東京書籍)

男子14名 女子13名 計27名

指導者 林 真希

主題について

ねらいとする価値

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも進んで法やきまりを守ることができるようにすることが大切である。ここでは、よしみちや時間を守るといった身近な約束やきまりを取り上げ、なぜきまりは、大切なのかを考えさせる。きまりを守るはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、自分の思いのままに行動するのではなく、きまりや約束を守って行動しようという心情を育むことをねらいとしている。

児童の実態

- ① 児童は4月に「節度・節制」の内容項目で、集団で生活を送る中で何が大切かといった学習を行った。わがままをしないで、規則正しい生活を送る大切さについて考える経験をしている。
- ② 児童は規則約束を守ろうとする意識はある。しかし、自分の欲求を抑えられず自分勝手な行動をすることもある。また、規則約束を守るのはいじめられないためといった他律的な児童も多い。
- ③ 自分の意見と人の意見を比べて考えたり、積極的に自分の考えを発表したりする児童もいるが、言葉にして自分の考えを表現することが苦手な児童もいる。

教材について

教材は、主人公が友達からの誘いでよしみちをし、きまりを破ってしまう話である。自分を探す教師や母親の姿を見てきまりの大切さについて考えることができる。登下校は児童の生活に深く関わるものであり、よしみちをしてしまう主人公の気持ちを自分に重ねて考えることができるであろう。現段階の児童にとっては、きまりや約束を守るとは、叱られないための行動である。約束やきまりを守ることがどうして大切なのか考え、自律的に約束やきまりを守ろうとする心を育てることができ、ねらいとする道徳的価値に迫ることができる教材である。

考え、議論する道徳の時間を充実させるために

〇 児童が実感を伴う納得解を得、実生活に生かすことができる道徳学習プログラムの作成

現段階の児童はまだ自己中心性が強く、ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。また、身の周りの公共物や公共の場の使い方や過ごし方についてどうするのがよいか、なぜ守らなくてはいけないのか十分に理解しているとは言えない。そこで児童自らの気付きを引き出すために、道徳プログラムを作成し、次のような工夫をする。

事前に学級活動や生活科の学習において、みんなが気持ちよく過ごせるにはどうしたらいいのか、公共の場のルールや自分たち以外にも公共の場を使う人たちはどんな人々がいるかを考える場を設定する。日頃児童は、きまりや約束を守れているか、自分自身の行動を振り返ることをしていない。そこで、きまりや約束に関するアンケートや道徳プログラムを通し、自分を客観視させておく。

展開後段においては、「自分も約束やきまりを守ってよかったことはいないですか。」と問いかける。ここでは児童自身の気付きを大切にしたい。児童は、約束やきまりを破り、叱られたり、迷惑をかけたったりした出来事はよく覚えているが、守っている気持ちになったことは思い出しにくいと考える。そこで、事前に保護者や地域の方から約束やきまりを守っている姿を見てどう思っているのか、アンケート結果を児童で紹介する。保護者の声を聞くことで、約束を守ることによって人とのつながりが深まった経験を思い出せるのではないかと考える。また、保護者や地域の人といった身近にいる大人の約束やきまりに対しての価値観に触れることで、より自分事として考えることができるのではないかと考える。なぜ約束やきまりがあるのか、自分自身も守られているのかを段階を追って気付かせるようにしたい。

〇 発問の工夫

本授業は【A 共感的な発問】【A 共感的な発問】【A 共感的な発問】【D 批判的な発問】の順で4つの発問を計画している。教材を自分のこと捉えるために、【A】の発問を繰り返すことが必要であると考えた。最後に【D】の発問をすることで、教材からやや離れて道徳的価値に迫るものとなっている。各発問の意図については、本時の学習展開に述べている。

本時の学習

(1) 本時の目標

学校や家庭のきまりや約束の大切さを知り、みんなが安心して気持ちよく過ごすために、きまりや約束を自律的に守ろうとする心情を育てる。

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動 ○主な発問 ●中心発問 ・予想される児童の心の動き	◇指導上の留意事項 □道徳学習プログラムとの関連 □発問の意図 *評価
気 付 く	<p>1 学校や家庭などの身の回りにあるきまりを想起させ、なぜきまりがあるのかを考える。</p> <p>○ 学校や家庭にはどんなきまりがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スリッパをそろえる。 ・チャイムがなる前に席に着くこと ・寄り道せずにまっすぐ帰ること。 <p>○ どうしてきまりを守るのでしょうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの迷惑になるから。 ・守らないと叱られるから。 	<p>◇ 学校や家庭などの身の回りにあるきまりや約束を自分は守れているのか、なぜ守らなくてはいけないと思っているのかをアンケート結果などで示し、ねらいとする価値への方向付けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>□家庭・地域と一体となった体験活動を含む「道徳学習プログラム」との関連</p> <p>事前に保護者へ家庭にはどんなきまりや約束があるのか、そのきまりや約束を守っているのか、なぜそのきまりや約束を作ったのかをアンケートで調査しておく。家庭にもきまりや約束があることを思い出させるとともに【見つめる】でも活用する。</p> </div>
と ら え る	<p style="text-align: center;">どうしてきまりをまもることがたいせつなのだろうか。</p> <p>2 『よりみち』を読んで話し合う。</p> <p>○ よりみちをして、子犬を抱いている時、みさきはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>【A共感的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子犬ってかわいいな。 ・少しならよりみちしてもいいよね。 ・遅くならないし、大丈夫かな。 <p>○ 動けなくなったみさきはどんなことを考えていたでしょう。</p> <p>【A共感的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配をかけてしまった。 ・どうしよう、怒られる。 ・よりみちをするのではなかった。 	<p>◇ みさきの絵を黒板に貼り、みさきが自分を待っている人やきまりのことはあまり考えておらず、目先の楽しいことばかり考えていることを視覚的に表す。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>□発問の意図</p> <p>児童は日頃からきまりを守らなくてはならないと思っている。しかし、少しだけなら破っても許されるのではないかと思っていたり、きまりを破っていることにも気付いていなかったりする。【A共感的な発問】を重ねることで、約束やきまりを破ることは誰にでもあることであるということ、きまりを守るということは別の誰かのためでもあるということ、こういったことに気付かせたい。</p> </div>

	<p>● お母さんの涙を見て、みさきはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>【A 共感的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配をかけてごめんさない。 ・あれ、怒られないや。どうしてだろう。 	
<p>深 め る</p>	<p>3 どうして約束を守ることが大切なのか考える。</p> <p>○ みさきは怒られていないから、約束を守らなくてもいいのではないですか。</p> <p>【D 批判的な発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんや他の人を悲しませるから約束は守らないといけない。 ・先生にも迷惑をかけるから約束を破ってはいけません。 <p>補助発問もし、みさきさんがきまりを守っていたらどうなっていたでしょう。</p> <p>○ 約束を守ることがどうして大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に心配をかけないため。 ・人を安心させるため。 	<p>□発問の意図</p> <p>「叱られるから約束を守る」という児童の授業前の意見に立ち返らせる。話の主人公は叱られてないから約束を今後も守らなくていいのではないかと、という</p> <p>【D 批判的な発問】をすることで本時でねらう道徳的価値を児童自身が気付くのではないかと考える。</p>
<p>見 つ め る</p>	<p>4 自分自身について振り返り、きまりを守る大切さやよさについて考える。</p> <p>○ 約束やきまりを守ってよかったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこをしている時、ルールを守ると楽しく遊べた。 ・滑り台も順番を守って滑ったら、仲良くなれた。 ・約束通りの時間に、友達が来てくれて嬉しかった。 	<p>□家庭・地域と一体となった体験活動を含む「道徳学習プログラム」との関連</p> <p>事前に保護者から「どんな思いで我が家のマイルールを作ったのか」給食の調理員さんから「きまりを守っている児童を見て、どう思ったか。」の手紙を用意しておく。約束やきまりは守ることは、当たり前であるが、守ることによって周りの人との関係がよくなり、安全で安心して生活できていることに気付かせたい。</p> <p>◇ 様々な生活場面を想起できるように写真を用意し提示する。</p>
<p>あ た た め る</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ 今日の学習で気付いてたこと、これからどうしていきたいか振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を守ること、友達と仲良くなれることが分かりました。 ・叱られるからでなく、人に迷惑をかけないためにも約束を守りたいです。 	<p>* 約束やきまりを守るとは、みんなが、安心して安全に過ごすために大切であることに気づき、約束を守ろうとする心情を高めているか。（ワークシート、発言）</p>

(3) 板書計画

(表 1) 海田南小道徳科のスタンダード

本校の道徳科過程のスタンダードを次のように設定する。ただし、主題・資料によっては、この限りではない。

導 入	気 付 く	学習の動機づけを図る。 ○本時の学習についての関心と期待をもたせる。 ここで、学習課題を設定する場合もある。教材の内容に関わる動機付けをする場合もある。
	と ら え る	教材を基に考える。 ○児童の価値理解を深めるために、教材を通して考えさせる。 児童の問題意識と主題を結び付けて、考えさせる。
開	深 め る	教材に描かれた道徳的価値に対する考えを深め合う。 ○多面的・多角的に道徳的価値を理解する。 価値に対する一人一人の考え方や感じ方を生かして話し合う。
	見 つ め る	学習を基に、自己の生き方を見つめる。 ○児童が日常生活に目を向けたり、自己の生き方を振り返ったりする。
終 末	あ た た め る	学習を振り返り、今後の発展につなげる。 ○ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えに気付いたり、道徳的価値を実現することの良さや難しさなどに気付いたりして、児童が今後の学びにつなげられるようにする。